

2019年5月31日(金) 市民公開講座

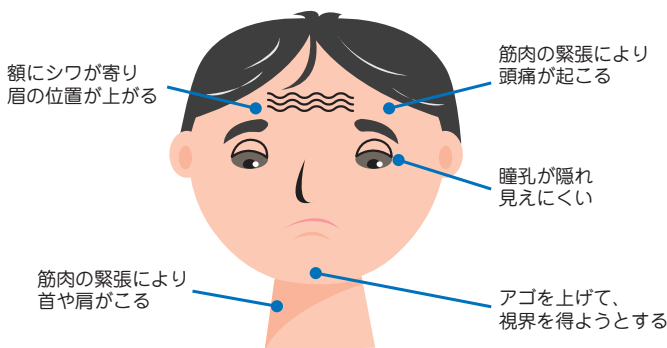
まぶたが重い、視界が狭い、眠たそう

～もしかして眼瞼下垂!?～

●症状

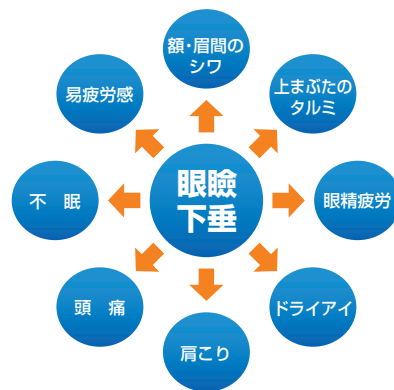
眼瞼下垂とは、まぶたが上がりにくい（目が開きにくい）状態をいいます。自覚症状としては、「まぶたが重くて眼を開けているのがおっくう」「視界の上側がまぶたで遮られ見えづらい」「頭上のものに気付かず頭をぶつける」などが挙げられ

●目に見える症状



ます。下垂があると、物を見る時にあごを上げる姿勢をとり、まぶたをより上げようとするため、額にしわが寄ったり、眉毛が上がったりします。額の緊張が続くことで肩こり、首こり、頭痛が起こることがあります。

●多彩な症状



●種類・原因

もとは普通にまぶたが上がっていた人が、少しずつ又は急にまぶたが下がってくる後天性眼瞼下垂が一番多く、その多くは数年間かけて少しずつ下がる**腱膜性**眼瞼下垂です。これはまぶたを上げる筋肉（眼瞼挙筋）の末端部の**腱膜**が、**瞼板**（まぶたの縁にある少し硬い部分）からはずれてしまうものです。

発症の原因は、老化による**腱膜の菲薄化**（皮膚や筋肉の変性）や慢性刺激による**腱の損傷**が多く

みられます。慢性刺激は、コンタクトレンズの長期装用によるまぶた裏側への刺激や、花粉症などの目のかゆみからまぶたを頻繁にこすることなどから生じます。

その他の原因に、脳梗塞、脳動脈瘤、糖尿病などによる**動眼神経麻痺**や、重症筋無力症、ミトコンドリアミオパチー、筋強直性ジストロフィーなどの疾患があげられますが、これらはとても稀です。

●治療法

まぶたを上げる筋肉（眼瞼挙筋）が十分にある場合には、**腱膜のはずれた部分を整復する手術の挙筋短縮術**や**挙筋前転術**を行います。二重まぶたの線に沿って皮膚を切開し、はずれている**眼瞼挙筋腱膜**や**眼窩隔膜**を**瞼板**に縫合します。眼瞼挙筋が十分でない場合には、おでこの筋肉の力を利用してまぶたを動かす方法の**前頭筋吊り上げ術**を行います。眉毛の上とまつげの上の二重まぶたの線

の2か所を切開して、**腱**や**筋膜**などで連結させます。また、老化によりまぶたの皮膚がたるむ**眼瞼皮膚弛緩**を併発している場合には、弛緩した余剰の皮膚と**眼輪筋**を切除して縫合します。

個人差はありますが、手術後1～3週間くらいのまぶたの腫れの後、1か月くらいかけて自然な状態に落ち着きます。なお、眼瞼下垂は保険診療で治療できます。